

## 令和4年度 県立水戸第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像 「至誠一貫」「堅忍力行」の校是のもと、未来を切り拓く創造力を育みながら、予測困難な社会の変化に対応できる教育を実践する学校			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p><b>【成果】</b> 令和3年度の重点項目に関する12の重点目標の達成状況は、Aは1、Bは9、Cは2であり、総括的には目標を達成できたといえる。 令和4年度入学者選抜における本校の志願者数は395名（令和3年度は361名）であり、地域の期待の表れとらえている。 1年生ながら科学の甲子園ジュニア茨城県大会に2チーム出場するなど、各方面で活躍することができた。 特別活動（学校行事・学級活動・委員会活動・体験型部活動など）については初年度といったこともあり、中高の連携がうまくいかなかった部分もあるが、様々な活動を通して生徒に自覚が生まれてきており、今後につなげていきたい。</p> <p><b>【課題】</b> 特別活動や授業等において、教員、生徒ともに中学と高校の交流を図り、より充実した教育活動の実践を推進するとともに、6年間を見据えて切れ目のない指導体制を構築していくために、より具体的な方策を検討していく。</p>	教育課程の工夫改善と学習指導の充実	① 新学習指導要領のもと、中高一貫教育校の特色を生かし、高校での学習内容と関連づけた授業を展開できるような教育課程の工夫改善を行う。 ② ICT機器（タブレット及び電子黒板）を活用することで理解度を高め、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。 ③ 夏季課外を円滑に実施し、将来の進路希望実現に資する学力の向上を図る。 ④ 60分授業の効果を高めるために、さらなる授業の質の向上を目指して、授業に係る研修機会の確保・充実に努める。	B B B B
	キャリア教育の充実	⑤ 総合的な学習の時間等を利用し、進路意識の高揚と進路希望の実現に向けたキャリア教育を充実させる。 ⑥ 卒業生の協力を得て様々な職業を知る機会を設け、将来社会に貢献できる人材の育成に取り組む。	B B
	健康安全指導の充実及び法令遵守の推進	⑦ 健康安全に留意し、心身ともに健康で、良好な人間関係を築き、生き生きとした学校生活を生徒が送れるよう指導する。 ⑧ 職員が健康で職務に従事できるよう業務精選に取り組み、法令遵守等についても評価面談で確認する。	B B
	特別活動等の充実	⑨ 特別活動（学校行事、学級活動、委員会活動、生徒会活動）の充実をはかり、創造性を養い、自主自立の精神の確立に努める。また、高校と連携した「体験型部活動」の円滑な実施に努めるとともに、科学の甲子園ジュニア出場など発展的な活動機会の充実を図る。 ⑩ 学校行事を適切に配置し、時に臨機応変に対応することにより、各行事の円滑な実施と充実に努め、新たな伝統の創造を目指す。	B B
	将来を見据えた教育活動の拡充と中高一貫教育校としての円滑な運営	⑪ 社会の変化に対応し、本校から世界に羽ばたく人材、グローバルな視野を持って地域社会の発展に貢献する人材の育成のため、中高一貫教育校としての組織の拡充に努める。 ⑫ ホームページをこまめに更新し、保護者や本校志望の小学生に本校の特色ある教育活動の情報を積極的に発信するとともに、学校説明会等においては生徒の活躍する場を多く設ける。	B B

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国語	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	B	<p>○古典の学習の際、漢文の訓詁や古文の文法など先取り学習を行うことができた。</p> <p>○他の県の過去問入試の作文問題を演習し、教師が採点し解説することを数回行った。</p> <p>○大学入共通テストにおける読解力や語彙力の必要性を伝えた。(3月に問題演習予定)</p> <p>○ICTを活用することで、論理展開における共有の時間が作文指導やスピーチ指導などで授業改善を図れた。</p> <p>○欠席者への板書事項としてスライドを配信したり、誤答分析の解説スライドの配信をすることで、補習として活用できた。</p> <p>○4月の引き継ぎや授業の方向性などの共通理解を図るための話し合い、授業動画の視聴、相互の授業参観を行ったが、後学期に入り、なかなか互いの授業を参観するなど、研修の機会があまり図れなかった。</p> <p>○60分授業を生かし、短文(80字以内)によるふりかえりの時間の確保に努めることができた。</p> <p>○どちらの学年も、生きたデータを活用し、実際の社会課題に関するテーマで作文を書く指導を適宜行った。クラッシーノートやスプレッドシートの活用を通して、他者との意見交流をする機会を増やし、相手にも伝わる内容かどうか、互いに指摘・助言することに重点を置いた指導ができた。</p> <p>○作文指導はスプレッドシートや共有七箇条(根拠と主張のずれを防ぐルール)、一人ディベートの活用により添削指導を実施し、表現力への指導を充実させた。繰り返し、行っていきたい。</p> <p>○小テスト、暗唱ともに位置づけてできた。合格するまで繰り返し指導し、間違い直しを徹底させた。</p> <p>○誤答分析の解説を放課後に行ったり誤答分析のスライドをクラスルームに挙げたりした。テスト前の補講を数回、希望者に行った。</p> <p>○雑誌にも紹介した、部首物語や熟語クイズなど、意欲を高める語彙指導を充実させることができた。</p> <p>○授業での学びが実生活のどこに生きてくるかを導入でできるだけイメージを持たせるように心がけたり、総合的な学習との関連を活かした課題作りに努めた。特に、2年生は「水戸市の人口推移のデータをもとに、町おこしの有効な手立てを考える」という作文のテーマを設定した。</p> <p>○夏課外にディベートの授業を行うことができたが、高校生との交流ができなかった。</p>
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実を努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実を努める。	A	
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	C	
	論理的に自分の考えを表現する力を育む生徒を育てる。	○授業の振り返りを通して、適宜添削指導を実施し、文章読解力と表現力の養成を図る。 ○共有七箇条などの観点や文型を活用し、考えを整理しやすくする。	B		
	基礎学力の定着を図り、段階的に全国学力学習状況調査に対応できる基礎学力の養成を図る。	○授業方法を工夫改善し、指導方法に対する研究を深めていく。 ○導入での漢字や語彙指導、中間の教科書主体の学習、終末の振り返りや問題演習と、60分間を3つのパーツに分け、見通しを持たせた学習を行う。 ○小テストや暗唱等によって基礎学力の定着を図る。 ○新学習指導要領に対応できる基礎学力を培う学習指導の在り方について検討を進める。 ○辞書や副教材等を利用し、学習内容の活用を図る。	A		
	中高一貫教育校の特色を生かした授業を展開できるような教育課程の工夫改善を行う。	○ディベート学習において、高校生のディベートを中学生が見たり、高校生に審判をお願いしたりして授業交流を深める。 ○実生活に結びついた必然的な課題の設定や目指す身に付けたい力の提示を毎単元心がけると同時に、グループでの話し合いの学習時間を充実させる。	B		
社会	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	B	<p>○中学校で習得した知識・技能を活用すれば取り組むことができる大学入試問題の演習などを通じて、中高連携および進路意識を高めながら授業を展開することができた。</p> <p>○60分授業を生かして、学習のまとめや多面的・多角的な問い返しなど思考力・判断力・表現力等を活用する時間を設けられるように努めた。また、発展的内容を精査して取り入れることができた。</p> <p>○中学教科内での打ち合わせや教科会において、社会科における60分授業を活用した中高連携の在り方について検討できた。</p> <p>○標準単位数を超えた授業時数を生かした単元構成を工夫することはできた。次年度の時数減にむけて、より効果的な年間指導計画を立てたい。</p> <p>○フォームなどを活用した小テストを実施することなどにより、生徒自身が基礎・基本を確認できるようにするための環境を整えることができた。次年度はその充実を図る。</p> <p>○プレゼンテーションやジグソー学習などを取り入れるなかで、多面的・多角的な思考を促す授業実践を行うことができた。</p> <p>○学習評価についての研究を進める。(特に、「主体性」および評価問題について)</p> <p>○ICT機器をより効果的に活用できるように実践を重ねる。</p>
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実を努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実を努める。	B	
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B	
	綿密な教材研究や授業改善を図るとともに、高等学校地理歴史科および公民科への円滑な接続を図るための確かな学力を養成する。	○教員相互間での研修により専門性を高め、生徒の知的好奇心を喚起する授業の実施を目指す。 ○基礎・基本の学力を徹底させるとともに、自ら思考する能力、資料を分析する能力、課題に取り組んでいく姿勢等を身につけさせる。 ○標準単位数を超えた授業時数を生かして、学習した内容を踏まえたプレゼンテーション発表やディベート学習などを実施することで、生徒が多面的・多角的に思考・判断し、表現できるようにする。	B		
	教科研修の充実によって、教員の授業力の向上をはかるとともに、新学習指導要領、中高一貫教育、評価方法の研究を進める。	○ICT機器やソフトウェアの活用方法に対する研究を継続的に実施していく。 ○新学習指導要領、中高一貫教育に対する研究を継続的に実施していく。 ○生徒の学習活動・能力を的確に評価する方法の研究を実施していく。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
数学	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	C	○高校とのつながりを意識した指導はできているが、その先の受験等を意識した指導までは行っていない。来年度は中学3年生まで揃った完成年度となるため、高校0年生を意識した指導を行うことができればよいと考えている。
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果が高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実を目指す。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実を目指す。	B	○60分授業を生かし、生徒の発表の時間を多めにとったり、別の考え方を取り上げたりすることで、多面的な見方や考え方に気づき、判断する習慣付けを図ることができた。 ○タブレットにより、個人の考えを共有したりグループで練り上げたりする活動を充実させることができたとともに、学習の状況についてソフトを使って確認することができた。
		進路実現のための学力向上を図る。	○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B	○研修という形ではないが、授業進度の細かい打ち合わせをする中で、指導方法に関して話し合いをすることができた。
	授業に積極的に取り組ませるとともに、自主的に学習に取り組む態度を育成する。	○予習復習を励行させ、教科書内容や基礎力の定着を図る。 ○課題や宿題について、自発的に取り組めるように意識づけを図りながら、タブレットを活用して課題の取組状況や習熟度の共有を図る。 ○学年担当者間の連携を密にし、教材の精選と授業内容の充実を図るとともに、対話を通した授業で多様な見方・考え方を共有するなどして、学習に対する生徒の興味・関心を高める。	B	○教科書に準ずる問題集で本時の学習に該当するページや問題を提示し、予習-授業-復習のサイクルにより定着を図りやすい学習の流れを確立できた。 ○習熟度に応じて適宜問題集での発展学習に努めさせるとともに、タブレットでの模範解答提示で自分のペースに合わせて学習を進められるように工夫できた。 ○高校につながる発展的な問いや実生活に即した問いを適宜取り入れ、学習の活用の可能性を見だし、生徒の興味・関心や意欲の喚起を図ることができた。また、生徒の多様な考えをうまく拾うことで、様々な見方・考え方を共有できた。	
		○単元テスト・実力試験の問題は精選検討を重ねるとともに、結果についても分析を行い、継続的な指導に活かす。 ○記述式の解答機会を適宜設け、解き方の過程や考え方を伝える力をつける。 ○疑問や新たな気づきをもたせる問いを設定し、生徒同士の学び合いや話し合い活動を充実させることで、大学個別入試および新テストに対応できる説明する力をつける。	B	○単元テストで授業や問題集での学習の定着度を図る問題を精選するとともに、再チャレンジの機会を設けたり、結果の分析から類似での反復を繰り返したりする指導を継続し、個に応じた指導ができた。 ○技能や思考・判断の問題では解答に至る過程を記述し表現する力を高めた。時間内で解けるようデジタルとアナログの使い分けをして、記述力を高めていきたい。 ○一つの問いに対して条件や数値を変えることによって普遍的な関係であったり一定の関係であったりする判断や説明の機会を多く設けることができた。生徒自身で一般化や拡張に広げることが常態化できるようにしていきたい。	
理科	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	○中学指導要領の範囲にこだわらず、体系性を重視した授業を展開することを通して、科学本来のおもしろさを追求しながら、興味・関心を高めるよう支援している。来年度、完成年度として中学3学年が揃った状態で、引き続き専門性を生かし、むやみに高度で抽象性の高い内容ではなく、高いレベルの科学をやさしく学ぶことのできる授業の展開を目指していきたい。
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果が高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実を目指す。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実を目指す。	B	○今年度から導入した、生徒一人ひとりのデジタル教科書の活用は、着実に生徒の効果的な学習に繋がっている。授業終了前の5分間を利用したFormsでの振り返り「本時の成果」を継続することで、的確に生徒の知識定着度や疑問点を把握し、次時の授業構成に役立てている。
		進路実現のための学力向上を図る。	○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B	○年間を通してT2・相互授業参観を行い、指導方法の改善に取り組んでいる。専門性を生かした授業の構成と、現行のT2・相互授業参観を継続していくために、理科4単位を分割した授業展開が必要である。また、他校の取り組みについて知る機会を模索していけるとよい。
	知的好奇心を育て、科学的な思考力・判断力・表現力が身につくよう、教員の授業力の向上を図り、授業展開を工夫する。	○自然科学の様々な事象現象について探究し、科学的な思考力・判断力・表現力を身に付けられるように、演習・生徒実験を多く取り入れる。 ○デジタル教科書や、デジタル図説を駆使して授業展開をするなど、デジタル教材を活用して、知識の習得と整理がしやすくなるようにする。 ○担当者の専門性を生かした授業展開を行うことで、生徒に興味・関心を持たせられるようにする。	A	○演習実験・生徒実験は年間20回以上は実施出来た。生徒が主体的に実験に取り組めるよう題材にも工夫をし科学的に探究する姿勢を育成できた。 ○デジタル教科書とデジタル図説は毎時間提示し、問題演習や実験レポート作成にもICTを活用した。興味関心を高め、効果的に学習を進めることが出来た。 ○担当者の専門分野を生かした授業展開は効果的だった。今後も継続させていきたい。	
	確かな学力の定着を図ると共に、生徒それぞれの進路希望に応じた学力試験に対応できる学力の養成を図る。	○単元テスト・実力試験の問題の精選検討を重ねるとともに、結果についても分析を行い、継続的な指導に活かす。 ○記述式の解答機会を適宜設け、解き方の過程や考え方を伝える力をつける。 ○疑問や新たな気づきをもたせる問いを設定し、生徒同士の学び合いや話し合い活動を充実させることで、相手に説明する力をつける。	A	○テストの問題は、基本から応用、大学入試問題等も取り入れることで生徒の意欲をかきたてることが出来た。また、学習の定着度が低い生徒には、補講を実施し苦学意識を克服できるよう配慮した。 ○授業の中で生じた疑問を、生徒が自主的に調べ、それを発信し、生徒同士が学び合える機会を設けたことで、学びが深化していく場面がうかがうことが出来た。	
中高一貫教育の理科教育の在り方、評価方法、新学習指導要領の研究を進める。	○新学習指導要領に対応するための学習指導の在り方や校内模試の在り方など、これから本校の理科教育の在り方について検討を進めていく。 ○校内試験や実験レポート、毎時間の学習の振り返りなどの評価への生かし方についての研修の機会を設け、より教育効果の高い学習指導の充実を目指す。	B	○学習指導の在り方や評価の在り方について、教科会等を通じて高校の先生と協議し、実際の評価に生かすなど本校の理科教育の発展を目指し、連携し合うことが出来た。今後は高校での指導がより効果的になるような指導計画を練っていきたい。		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
音楽	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	B	B ○主体的に学習できるよう工夫して教材等を準備できてきたが進路意識につながっているかは疑問なのでさらに研究していきたい。 ○コロナ禍の影響も減り本来の学習内容を指導できているが生徒に合った進度や難易度を再検討したい。 ○ICT機器が不十分な環境であるので改善を望んでいるが現状でできる限りの指導は行っていきたい。 ○表現と鑑賞を60分の間に両方組み込むなどの工夫をして生徒が生き生きと活動できる場を増やしたい。 ○楽器の整備が不十分なためタブレット等を利用した活動などで充足していきたい。 ○音楽と他の芸術作品の関わりに触れたり、多様なジャンルの音楽に触れたりする場を多く持ちたい。 ○各分野のバランスを取りながら複数の分野を包括的に学べるような学習活動をめざす。 ○生徒の協調性や個性が生かせるような発表の機会を設けたい。 ○音楽の諸要素の役割を意識しながら基本的な知識・技能を習得できるようにしたい。 ○音楽表現の幅を広げるための基本をしっかり身に付けよりよい音楽を表現できるように指導したい。
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果が高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。	B	
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B	
		主体的に音楽に触れることで芸術に対する感性に気づき高める意識・態度を育てる。	○多様なジャンルの音楽や音素材に触れる機会を増やし豊かな感受性と表現する力を育む。 ○主体的に音楽に関わる態度を育て、音楽をはじめとするさまざまな芸術に対する関心・意欲を高める。	A	
		音楽を表現する様々な方法に気づき、自分の感性を活かした表現をめざす。	○歌唱・器楽・創作・鑑賞の各分野を偏りなく指導し、それぞれのつながりを感じながら表現する態度を育てる。 ○発表の場を設けることで他者の表現なども参考にしながら個性豊かな表現を工夫する意欲を高める。	A	
		音楽を理解しよりよい表現につなげるための基礎的な知識を得る。	○音楽の諸要素(形式・構成・音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱)について学び理解を深めることでさらに豊かな表現をめざす。 ○基本的な唱法・奏法・創作の知識を身に付け、豊かな音楽表現をめざす。	B	
美術	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	B	B ○進路意識の高揚につながるような主体性を持たせることは難しく、特に2年生に主体性を待たせることが課題である。 ○授業研究や資料作りにかかなりの時間をかけ、質の高い効率的な展開をするも、授業に臨む姿勢からの指導が必要で、効果が上がっているとは言えない。 ○かなりの時間をかけ教材研究に努めているが、まだまだ必要と感じている。 ○さまざまなアプローチで感性を刺激する試みをしているが、内容の精選、生徒の姿勢に対する指導など、さまざまな角度から工夫が必要。 ○課題には取り組むものの、本質に迫るような姿勢にまでなる生徒が少ない。取り組む姿勢に対する指導の工夫が必要。 ○自分の表現を発表することが苦手な生徒がとても多く、指導の工夫が必要。 ○参考作品づくり、資料づくりと、かなりの時間をかけ教材研究に努めた。
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果が高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。	B	
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B	
		鑑賞の機会を確保するよう努める。感性を高め、人生を豊かにするという意識・態度を育てる。	○生徒の興味、関心を持たせるため、より多くの作品に接する機会を増やし、豊かな感受性と人間性を身につけさせる。 ○様々な作風・ジャンルの作品を取り上げ鑑賞させる事により芸術に対する視野を広めさせるとともに、ものを見つめる目を養い、そこから真実を発見しようとする態度を身につけさせる。	B	
		自発的に、課題に取り組む姿勢を持たせる。	○実技・実習の時間をできるだけ確保するとともに、その内容を精選し、段階的に工夫して実践できるようにする。基礎から応用までバランスの取れた授業内容を目指す。 ○自分の表現を発表する機会を増やし、その表現を生徒同士で共有し理解し合う場面を多く設ける。	B	
		新たな教材研究に努める。	○新しい展開を生むための教材研究に努めるとともに、教師自身が技術向上の研鑽を積み、高いレベルでの実演、指導ができるよう努める。	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
保健体育	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	B	<p>○生徒の主体的で深い学びにつなげるために各授業を通じて、生徒が教え合うこと学び合うことを促進したい。進路実現に向けて体力面からも積極的にアプローチしたい。</p> <p>○体育館の長寿命化工事の工程を考えながら、指導時期や内容について工夫して実施した。</p> <p>○振り返りで活動の記録をしたり、器械運動の技の習得のため動画撮影をしたり、修正やアドバイスをするなど活用した。</p> <p>○研修会への参加や教科会を通じて授業方法の改善を図り、生徒の主体的活動の契機とした。</p> <p>○準備運動で、ストレッチや馬跳びなどを取り入れて、弱点補強への意識付けを行ったり、個人の体力分析カードを活用して、自分に合った体力向上プログラムを設定したりすることができた。今後は、実践へとつなげることが課題である。</p> <p>○伝統行事の「歩か会」の意義を理解させるとともに、健康面への配慮を念頭におきながらも体力の向上を図っていきたい。</p> <p>○体育館長寿命化工事に合わせて、基礎体力の養成や基本スキルの習得に重点を置き、各種目領域で取り組んだ。教具やルールを工夫して、ケガ防止に努めた。</p> <p>○ガイドラインや保健厚生部の基準を守りながら、感染症の予防に努めたり、保健分野の授業内容などを生かして、健康や衛生的な生活を目指したり、健康で安全な生活に向けた取り組みがなされた。</p> <p>○「保健」の授業では、各自の健康課題を理解させ、生活実践に活かす指導を目指し、思春期における自己理解を促す取り組みを進めることができた。</p> <p>○ねらいの達成のために、外部講師を有効に活用し、講演会等を行うことができた。</p>
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果が高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。	B	
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B	
		自己の体力を把握させるとともに、健康や運動に関する意識を高める。	○昨年体力テストの結果を反映し強化が必要な分野(柔軟性・瞬発力)について、体育授業のW-UPで、毎時、ストレッチや補強運動を実践する。 ○長距離走への積極的な取り組みにより、基礎体力の向上を図る。 ○投動作の強化向上を図るため、教具を工夫し、練習の機会を設ける。 ○特別活動の体育分野における積極的活動を推進する。	B	
		授業時のケガの防止に努める。	○運動時の安全に配慮した場の設定等を計画的に行いながら、ケガ防止のための正しい動きを身に付けさせる。 ○授業に臨むに当たり、健康観察、コロナ対策、熱中症対策、交通安全に努めると同時に、生徒にも健康安全に対する自意識の向上を喚起する。	A	
		「保健」とおして心身の健康の保持増進を図る。	○「保健」を通じて、思春期における生徒の健全な成長を目指し、外部講師等の活用を図った授業を展開する。 ○「保健」の授業を通し、思春期における自身の健康課題と社会的な課題における自身の役割を理解させる。 ○ICTの導入及び積極的活用を図る。	A	
技術・家庭	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	A	<p>発問など生徒との対話を意識して進めることができた。今後は、より効果的な発問やメリハリのある授業展開を確立していきたい。</p> <p>限られた単位数であるため、授業の進度や内容の検討・改善をし、より効果的な授業計画を模索していきたい。</p> <p>ICT機器についても授業の中で活用はできたが、より効果的な活用方法を研究し続けたい。</p> <p>学年に応じた授業展開の時間感覚をつかめないこともあり、計画通りに進まないこともあったため、年間計画や各時間の授業展開を見直し、改善していきたい。</p> <p>定期的に小テスト等を行って、基礎的な知識の定着を図ることができた。必要用具については、少しずつ整備を進めることができた。次年度以降も引き続き、全員が経験できるように整備していきたい。</p> <p>コロナ感染対策を十分にし、衛生管理に努めることができた。また、何度も繰り返し注意を促すことにより、生徒自身の危機管理能力を養えた。しかし、十分に実習を行っていない分野もあるので、時間の確保、状況に応じた対応を検討していきたい。</p> <p>ICT機器やワークを用い、個人ワークを積極的に取り入れ、個々の課題と向き合う時間の確保に努めた。また、グループ活動やペアワークを通して、個々の意見交換や話し合い活動をし、より深い学びに繋げることができた。次年度もICT機器を効果的に活用し、一人ひとりが主体的に取り組める工夫を検討していきたい。</p>
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果が高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。	B	
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	B	
		生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能の習得を目指す。	○小テストを定期的に行い、基礎的な知識の定着を図る。 ○必要用具が1人1つ行き渡るよう整理し、全員が十分な実践的学習時間の確保を目指すことで、基本的な技能の習得を図る。	B	
		衛生面や安全面に留意し、体験的な活動から実践的な力の定着を図る。	○実習室や使用する用具の管理を徹底し、安全に製作や実習、実験などの活動ができるようにする。 ○状況に応じ安全を考慮した上で、より多くの体験的な活動ができるよう努める。	A	
		生活や社会の中から問題を見だし、よりよい生活へ改善しようとする意識の向上を目指す。	○グループ活動やペアワークを取り入れ、学んだことを生活の中で活用できるように努める。 ○自らが日々の生活の中で、主体的に課題発見と改善策考案を模索し続けられるように、ICT活用だけでなく、より体験的な学習の場の提供を目指す。	A	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
外国語	各科共通	教科指導全般	○生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。	B	<p>附属中学校の目標である英語力(英検準2級以上)を目指して、生徒たちは主体的に学習を進められている。高校への進学だけではなく、将来を見据えた進路意識の高揚については、まだまだ指導が足りないため、次年度は社会へ出た時にも使える英語を取り入れて指導をする。</p> <p>1時間の授業内で学習内容の定着を図るために技能横断的な活動を積極的に取り入れることができた。これまでの授業を改善するために、ICT機器を活用することができた。板書だけではなく動画や資料を多用することができ、指導内容の充実を図ることができた。実際の音声や動画、資料を今後も適宜使用していきたい。</p> <p>指導方法等の研修を行う機会を設けることはできなかった。次年度は、高校への接続を意識して、高校の授業参観を積極的に行いたい。また、指導方法の研修も取り入れていきたい。</p> <p>基礎基本の定着のために、授業時間内に活動の時間を十分確保することができた。話す・聞くから読む・書くへの移行がスムーズにできるように活動を行った。自分事として活用できるように何度も繰り返し取り組める力を育てていきたい。プリントを活用することで表現力は向上してきたので、次年度も同じ取組を継続していきたい。</p> <p>単元のみとして、Flipgridを活用してまとまった内容をプレゼンテーションする機会を設けることができた。録画された内容を生徒同士が視聴し、良かった点や改善点、質問などを活動を取り入れたことで、話すこと&lt;発表&gt;の内容だけではなく、はなすこと&lt;やり取り&gt;を意識した活動とできた。JAmBoArdを活用して、表現の幅を広げられたことは、実際にやり取りをする場面にも活かされた。次年度も継続していきたい。</p> <p>学習サイトで全単元の単語練習やKey Point例文の練習フォームを活用している姿が数多く見られた。事前に学習できる場を準備しておくことで、生徒が進んで学習に取り組んでいたようであった。振り返りの時間には、本時の学習内容を1枚に自分でまとめることで学習内容の焦点化が図られた。また、まとめることで内容理解度が増したようである。本時だけではなく、次時への意欲向上のために改善を進めていきたい。</p>
		充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。	○60分授業の効果をも高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実にも努める。 ○ICT機器(タブレット及び電子黒板)を活用して、より教育効果の高い学習指導の充実にも努める。	A	
			○60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。	C	
	実践的な活動を通して、コミュニケーションをとるための基本的な知識と技能の定着を目指す。	○基本的な表現の理解を深めるために、授業時間内に活動の時間を十分に確保することで、知識の定着を図る。 ○授業内容ごとに自作プリントを作成し、基礎基本の定着を図り、言語活動における表現力の向上を図る。	A		
	日常的な話題や社会的な話題について、情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりする力の定着を目指す。	○ICT機器を活用して、表現する機会を単元のみとして設定することで、思考力や判断力の育成を図る。 ○GoogleスライドやJAmBoArdをプレゼンテーションで活用することで、プレゼンテーションの機会を設けて、表現力の育成を図る。	A		
	自らの学習を調整する力の育成を通して、主体的に学習に取り組む態度の定着を目指す。	○学習サイトを用いて、自ら学習内容の定着を図れる場を設定し、目標を明確にすることで進んで学習に取り組む態度の育成を図る。 ○授業で学習した内容の確実な定着と自らの学習を調整する力を育成するために、振り返りの時間を毎時間確保し、次時の学習への意欲の向上を図る。	B		
教務	教育課程の工夫改善をする。	○授業時間増を生かした教育課程を作成し、少人数指導やTTを行うことで、学習内容について発展的なものまで扱えるように努める。さらに、完成年度に向けて教育課程の再検討を行う。	A	<p>複数人で授業を行う教科に関しては、発展的な内容の指導や習熟度別授業を行うことができた。また、授業内容に応じて担当者を変えることで、教育効果を高めつつ効率的になるようにした教科もあった。来年度から教育課程を少し変更するので、その効果を検証したい。</p> <p>授業交換を行うことで、自習になる授業を避けることができた。しかし、学年が増えたことで、授業交換の自由度が昨年に比べて低くなったため、交換による授業のアンバランスまで考慮することが難しいときもあった。</p> <p>昨年に引き続き、教員相互による授業参観は研究構想部主導のもと実施することができたが、研究というところまでは十分踏み込むことができなかったのが課題である。ICT機器の活用は十分に行うことができた。</p> <p>水戸一高附属中説明会は、生徒が積極的に関わりながら実施することができた。また、公開授業で学校を公開することはできた。しかし、ホームページを通して本校の活動を周知することについては、昨年よりも行えなかった。</p> <p>支援システムについては、昨年よりも計画的に利用することができた。しかし、効率的に運用して授業研究時間の増加をするところまでは到達できなかった。</p>	
	授業時間を確保する。	○自習をできるだけ避けるため、早めに出張・年休を把握し、可能な限り授業交換をする。その際、交換による授業のアンバランスにも配慮する。さらに、授業の曜日変更により、授業時数の均一化をはかる。また、夏季課外を円滑に実施する。	B		
	授業内容のさらなる充実を図るとともに、併せてICTの活用を推進する。	○60分6時間授業をより充実したものとするため、研究構想部と協力して、教員相互による授業研究などを実施する。また、ICT機器(タブレット及び電子黒板等)を利用した授業展開を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実にも努める。	B		
	教育活動を公表する。	○学年と連携して、小学生対象の水戸一高附属中説明会、公開授業の実施により学校を公開する。また、同時に地域住民等に広く水戸一高附属中の教育理念を周知する。	B		
	統合システムを円滑に運用する。	○支援システムの円滑な運用を進めるために、管理体制を見直すとともに、使用法の徹底や活用法の研究をする。システムの効率的運用で教員の授業研究時間の増加を見込む。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
特別活動	学校行事を通じて、本校生としての一体感と誇りを持たせ、学校生活を充実させる。	○学校行事を適切に配置し、時に臨機応変に対応することにより、各行事の円滑な実施と充実に努め、新たな伝統の創造を目指す。 ○高校との連携した行事においては、特別活動部が橋渡し役となり、双方に教育的な効果が生まれるよう配慮する。 ○中学独自の行事においては、6年間を見据えた内容になるよう考慮した内容を目指す。	B	クラスマッチ、学苑祭、歩く会の実行委員会が中学生を含めた形で始動し始めている。中高が分断して終わらないように特別活動部が中心となって連携の橋渡しを今後もしていきたい。 中学独自の行事は中学校3年間で終わりにならないように内容を考えていく必要がある。
	部活動を通じて、豊かな感性と健全な心身を育む。	○高校と連携した「体験型部活動」の円滑な実施に努める。 ○体験活動を充実させ、選択肢が増えていくよう配慮する。高校との連携においても、双方に教育的な効果が生まれるよう内容を精査していく。	B	B 体験型部活動の生徒の参加率は8割（吹奏楽部を含む）であり、参加率が高い。現在体育館の工事中であることから、体験できる部活動の選択肢が限られてしまっているため、拡充を目指したい。
	学級活動においてキャリア・パスポートを活用する	○各学年の学級活動においてキャリア・パスポートを作成し、社会の中での自身の在り方を考える。	B	キャリア・パスポートの作成は行っている。今後は活用の仕方についても検討していきたい。
進路指導	生徒一人ひとりが深い自己理解に根ざした高い進路目標を抱き、高校進学後に多くの生徒が具体的な進路希望を持てるように導く。	○高校と連携し、生徒の進路意識の高揚を図るとともに、授業を中心とした主体的かつ計画的な学習を促進させる。 ○自己理解や職業関連のプログラムを円滑に実施し、キャリア教育と進路指導の両面で将来を見据えられる生徒の育成に向けて、指導の充実を図る。	B	○高校教諭による特別講座や高校授業体験を継続・充実させていきたい。 ○自己理解や職業関連のプログラムを定型化できるよう学級活動や総合的な学習の時間の計画を見直していきたい。
	学年との連携を図り、生徒や保護者に、機を捉えて適切な進路情報を提供する。	○学年及び高校と連携し、進路講演会やガイダンスを通して、情報提供と生徒の啓発に努める。保護者に対しては、生徒の現状に合わせた家庭でのかかり方等の情報提供に努める。 ○生徒・保護者・教員の3者にとってより有益なものとなるよう6年間を見通した「進路の手引き」への改善を進める。	B	B ○一方通行の情報提供で終わらず、参加や体験をした生徒からのフィードバックを収集、分析していきたい。 ○進路や生き方への意識を高められるよう工夫、改善を図ってきたい。
	6年間を通して見渡せるような進路指導の流れの構築を進め、それらの情報・データを職員間で共有できる環境を整備し、一層の進路指導の充実を図る。	○県内外の附属中学校や中等教育学校の進路指導形態を調査・分析し、本校における高校接続までの進路指導の流れを構築する。また、この分析したデータベースを活用して職員研修等を実施し、指導に有効と思われる形態についても研究を進める。	B	○生徒の実態に応じた一人一人への適切な進路指導の在り方について、他の分掌とも連携しながら考えていきたい。
研究構想	「チャレンジ・プロジェクト」(プロジェクト「図南ジュニア」-21世紀型スキルを備えたリーダーの育成-)を充実させる。	○「心に火をつけるフォーラム」等の行事を通して、自分の在り方や生き方、進路について考えさせる。 ○課題研究や「知道プロジェクト発表会」を通して自ら課題を発見し、多様な視点から論理的に考察する力や自らの考えを他者に上手に伝える力を培う。 ○将来リーダーとして社会貢献のできる人材育成を目指す。	B	○「心に火をつけるフォーラム」の事後指導をしっかりと行うことができた。 ○「知道プロジェクト」に向けて総合的な学習の時間での発表を充実するべく、司書との連携や高校生や保護者など外部の人間へ発表することができた。 ○総合的な学習の時間のテーマ設定自体を、茨城、日本の社会貢献をテーマにして進めることができた。
	教員の授業力向上を図る。	○「新任者授業見学会」、「校内授業公開」による校内での実践研修および、「茨城大学附属学校等の教育研究大会」等による校外での指導法研修を行い、質の高い授業を研究する。 ○「校内教員研修会」、「県外進学校視察」等を行い、中高一貫におけるキャリア形成を促す指導やHR経営等の知識やノウハウを蓄積・継承する。	B	○本校の売りは何か、校内研修会をjAmBoArdを活用した話し合いを数回行い、よりよい提案ができた。 ○進学校視察等での資料配付や、研修センターで紹介された朝美術鑑賞の実践など、HR経営やキャリア形成を促す指導に参考になる情報を積極的に配信し、共有することができた。
	開かれた学校づくりを推進する。	○中高連携を推進し、相互に連携・交流を深める。 ○「学校公開」や「道徳公開授業」を行い、本校の教育活動や取り組みを広く周知する。	B	B ○高校生との合同道徳を2度実施し、「学校公開」において授業を公開した。異なる年齢集団での意見交流は有意義であった。題材や授業形態等については、よりよいものになるように改善をしたい。
	充実した教育活動により、未来を担う人材を育成する。	○「総合的な学習の時間」を通して、進路意識と探究心を刺激し、自らの将来像を考えさせる。 ○「道徳」を通して、道徳的判断力や道徳的实践意欲・態度を育成する。 ○総合的な学習の時間や道徳などの授業において、中高合同授業を実施することで、異学年間交流を図るとともに、生徒の多面的・多角的な思考力・判断力・表現力を養成する。 ○毎日の学習の振り返りやキャリア・パスポートなどを通して、主体的に学習に取り組む態度や自身のキャリアを形成する力を育む。	B	○総合的な学習の時間では、ゲストティーチャーや高校生を招いて探究活動を展開することで、多面的・多角的な視点で思考力・判断力・表現力等を高めた。 ○高校生との合同道徳や学活を複数回実践することができた。 ○道徳の授業担当者をローテーションで行うことにより、多様な視点から授業を展開できた。 ○キャリアパスポートを定期的実施することができた。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	○挨拶の励行。校内外で積極的に挨拶をするよう指導する。 ○校外・地域等に進んで貢献・奉仕しようとする意識を持たせる。 ○規範意識を高め、水戸一高附属中生として誇りの持てる行動をするよう指導する。	B	規範意識が未熟な生徒に対する丁寧な対応を進めていくと共に、豊かな心の教育をあらゆる視点から進めていきたい。挨拶運動等を展開し、積極的に挨拶をする習慣を定着させていきたい。  本校生としての自覚と誇りを持って意識して行動できる生徒が大半であるが、生徒指導上の問題を抱える生徒も存在している。生徒指導部だけでなく、学校全体で問題を共有して、生徒の心身の成長を多くの目で見守っていきたい。生徒協議会という形で月一度のペースで、高校と生徒の状況の情報共有を行うことで連携をとって生徒支援ができたと感じている。  自転車安全教室の実施、マナーアップキャンペーンでの交通安全の呼びかけ等を行い、安心安全な通学に対する意識づけを行うことが出来た。  いじめ対策会議を定期的に開催し、情報を共有することでいじめの未然防止に努めた。今後も継続して会議を開催したり、教員研修を行ったりしながら、いじめなしの学校をめざす。また、毎月の学校生活アンケート後は生徒面談を実施し、生徒の内なる声に耳を傾け生徒の心に寄り添った対応を心がけた。
	生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、連携を取り合い適切に指導する。	○思いやりのある豊かな人間性を養い、人間関係を円滑にし、水戸一高附属中生としての自覚と責任ある行動をとるよう指導する。 ○生徒面談の機会をより多く設け、生徒指導上の問題に対して予防的に対応できる体制を整える。 ○各学年・保健厚生部・養護教諭との連携を密に、生徒の状況を正確に把握し、生徒の心身の健全な育成を目指す。また、高校とも情報を共有し、多くの教員の目で見守る体制を整える。 ○インターネットやスマートフォンの適切な使用法を家庭と協力しながら指導する。	B	
	交通安全の意識を向上させる。	○生徒通学路の安全状況を把握・確認し、生徒が安心安全に通学出来るよう対応する。 ○自転車による交通事故ゼロを目指す。通信機器等を操作しながら、またはイヤホンを使用しながら運転をしないなど、安全な自転車の乗り方を指導する。	A	
	いじめ問題に適切に対応する。	○いじめの未然防止にいつそう努め、いじめのない学校を目指す。 ○いじめを早期発見するために、毎月の学校生活アンケートを実施し、生徒の状況を綿密に確認し、各部署や家庭との連携を図り、予防的に対応もしくは早急に対応する。 ○教職員対象の校内研修を実施し、いじめに対する意識を高める。	A	
情報	ICT機器の整備・管理・運用を適切に行う。	○GIGAスクール構想に基づき、引き続き校内におけるICT機器の再編・整備に努める。 ○ICT機器管理室の整備をさらに進め、適切な管理・運用ができるような制度設計をおこなう。	B	引き続き適切な情報管理に努めていきたい。  WeBページの見直しも含めて今後も随時行っていきたい。  校務用PCについて台数を優先したため、スペック的には劣るPCが多い。メインメモリの増設やSSD搭載のPCを配備するなど環境の改善が必要不可欠である。スプレッドシートの連絡掲示板を活用し、さらなる情報提供や注意喚起に努めていきたい。  Google eLAssroomやClAssiを活用して保護者に提出をお願いし、アンケート回収率は向上した。より一層、回収率を上げるような対策が必要である。
	学校WeBページの充実を図る。	○特に、本校の特色ある教育活動についての情報発信を充実させる。 ○WeBページのレイアウトや項目等を見直し、見やすいページに改編する。	B	
	教育の情報化へ向けた支援活動を行う。	○教育の情報化をより一層推進するため、ハードウェア、ソフトウェアの両側面から先生方の支援を進める。 ○他分掌、学年との連携を強化し、情報部として可能な支援を引き続き推進する。 ○個人情報の管理やウイルス対策等の注意喚起・情報提供をおこなう。	B	
	効果的な学校評価アンケートを実施する。	○より効果的に、学校運営に生かせるアンケートにするため、質問項目を改善する。	B	
図書	図書館司書との連携を深め、自ら課題を発見し学ぶ生徒を支援する図書館として一層の充実を目指す。	○司書との連携を深め、教科からの授業内容に関連する推薦図書情報を得て、レファレンス・展示等をおこない、貸出し利用に繋げる。 ○選書について、教科担当からも意見を多様な興味関心をもつ生徒にできるだけ扱い、中学生向け選書にも配慮をしてゆく。	A	○前年度、中学の先生から本のカタログを回して、おすすめの本に付箋を貼っていただいたものを、選書の参考に司書に提案した。 ○次年度の雑誌コーナーの見直しに、図書委員からも意見を参考に聞いた。 ○川又書店に、図書委員の有志で選書に2回行くことができた。ポップや図書館便りにおすすめ本の紹介をすることができた。  ○司書に協力を仰いで、新聞コーナーを新たに各学年に設置したり、総合的な学習の時間や研修旅行に必要な資料や本を廊下に設置したりした。 ○1年の総合的な学習の時間の引用文献の探し方や提示の仕方について、司書に講義を3回していただいた。 ○図書委員がおすすめの本紹介スライドを作成・企画し、給食の時間に配信した。  ○カウンター当番は中学生は入れないが、学級文庫を毎月クラスに設置する際の貸し出し返却作業は生徒主体で行うことができた。  ○部員会には欠かさず参加したが、高校の読書感想文の審査なども参加した。しかし、原稿等のお手伝いは機会がなく行えなかった。
	読書に親しむ環境を整え、読書への啓発活動を行う。	○総合的な学習の時間での利用をはじめ、生徒一人ひとりの学習で一層の図書利用が進むように、図書室でのPOPや新刊紹介、講義室や廊下に新聞閲覧コーナーや特設図書を設置する。 ○おすすめの本を紹介する等のイベントを感染状況に留意しつつ開催する準備を進め、生徒どうしの読書体験の共有・啓発運動を行う。	A	
	高校生の委員会と連携し、生徒委員会活動のさらなる活発化を目指す。	○毎日のカウンター当番等を活動の基盤としながら、生徒委員を主体的に運営できる生徒の育成をめざす。 ○感染拡大により、大きな活動やイベントができないときに備え、より小さな生徒単位で行える効果的な方法について検討、実施を進める。	B	
	機関誌を着実に発行し、本校の歩みを正しく記録する。	○年報の発行に向けて、編集方針検討や資料収集作業を着実に進行。 ○図書館報2誌の制作を計画的に行い発刊する。	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
保健厚生	学習環境の整備に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校舎内外の美化活動の取り組みを推進する。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策をおこなったうえで、衛生状態が保たれるよう取り組みを行う。(教室等のゴミ箱を廊下にだし、ゾーニングを徹底するなど。)</li> <li>○教室内・各教科準備室等の空気・照度検査、飲料水の水質検査、ダニの検査を実施する。</li> <li>○モップ交換や普通教室のカーテンのクリーニング、ワックスがけを行う。</li> <li>○施設・設備の安全点検を行い、環境の安全の確保を図る。</li> <li>○附属中開校に伴い、カウンセリング室の整備継続や感染症疑い生徒の待機場所確保を行う。</li> <li>○毎日の健康観察の実施、保健調査や各種健康診断等の実施</li> <li>○緊急時の各種マニュアルの制定。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○掃除やモップ交換、ワックスがけを通して学習環境を整えることができたが、感染症対策のためにも、しっかりした取り組みを継続したい。</li> <li>○トイレの洋式化に伴った清掃方法の検討や清掃用具の整備ができた。</li> <li>○今後も、感染症予防の継続が予想されるので、衛生的な学習環境の保持のため持続可能な取り組みについて検討し実践したい。</li> <li>○カウンセリング室の整備が必要である。</li> <li>○毎日の健康観察の実施継続とそこから得られる情報の活用を検討する。</li> </ul>
	心身ともに健康的な生活習慣の確立に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康診断や保健室利用時などの機会を捉え、それらをいかした保健指導を行う。</li> <li>○保健体育の学習や各教科、HR、行事等との関連をもたせた、事故・けが等の予防や新型コロナウイルス感染症予防をはじめとする感染症に対する予防を徹底するよう指導する。</li> <li>○各学年、生徒指導部、スクールカウンセラーとの連携を密にして、保健日誌の活用や情報交換等を行うことで、生徒の心身の健全な育成を目指す。</li> <li>○健康に関する情報提供のための「保健だより」の毎月1回の発行。</li> <li>○災害時における避難訓練を中高合同で行い、校内の状況と避難経路を確認し、防災に対する意識を高めるよう指導する。引き渡しに関する、中高の基準等について確認し、非常時に備える。</li> <li>○中学職員の保健厚生部職員の連携と各種講習会や講演会の実施を積極的に行う。</li> <li>○栄養職員と連携し、衛生的で安全な給食指導の実施と食育の推進。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○防災避難訓練において原子力災害を想定した取り組みが出来た。教室配置に合わせて避難経路の見直しを確実にしたい。</li> <li>○スクールカウンセリングにおいて、利用の仕方の共通理解や連携についての共通理解が進んだ。さらに連携を進める必要がある。</li> <li>○新入学予定者の健康や生活態度に関する情報の取り扱いや、保健指導等の個別対応で得られた情報の共有のための方策の検討を継続する必要がある。</li> <li>○生徒に関する、健康面や生活面などの知り得た情報の適切な取り扱いについて、共通理解をもとに慎重に検討する必要がある。</li> </ul>
1学年	基本的生活習慣の養成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○元気な挨拶を中心とした、何事にも前向きに取り組む態度の育成を図る。</li> <li>○学校生活の中で自主的に時間を意識した行動をとり、授業時間や給食の時間の十分な確保を目指した態度の育成を図る。</li> <li>○道徳教育を中心として、学校教育全体を通して規範意識の向上を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年道徳(集会)等を通して、あいさつと時間を意識した学年の雰囲気作りを行うことで、規範意識の向上を図っていた。また、朝読書の励行により、1日の始まりを落ち着いた雰囲気で見送ることができている。来年度以降も続けていきたい。</li> </ul>
	自主的な学習に取り組む態度の養成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○振り返りの時間を確保し、自分の学習についての記録を定期的に見直すことで、取り組むべき課題を明確にし、進んで自主学習に取り組む態度の育成を図る。</li> <li>○ドリルパークやCIAssi等のICT教材を効果的に活用することで興味・関心の枠組みを広げ、自ら進んで学習内容を掘り下げる意欲を高め、自主的な学習に取り組む態度を育成する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日の振り返りの積み重ねを月末に見直し、次の月の目標に繋げていくことで、各自の課題を明確にすることができている。個人面談等を通して、より効果的に自主的な学習が進められるように支援して行きたい。</li> </ul>
	特別活動への積極的な参加を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事、委員会活動、体験型部活動等についてのオリエンテーションを充実させることで、積極的に参加しようとする態度の育成を図る。</li> <li>○様々な行事や活動に対する参加の目的や趣旨を明確にすることで、何事にも挑戦しようとする態度を育成する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3日間のオリエンテーション研修と1学年として合同で取り組んだ学苑祭の企画展示を通して、意欲的に特別活動に参加する態度が育成できた。今年度の経験を基盤として、来年度以降のオリジナルティのある活動の提案と積極的な参加を支援して行きたい。</li> </ul>
2学年	凡事徹底の意識の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶や返事などの基本的生活習慣の徹底しようとする態度の育成を図る。</li> <li>○学習や学校生活における基本的なルールをしっかりと守り、上級生として手本となるような態度の育成を図る。</li> <li>○身だしなみを整え、自らを律することで規範意識の向上を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年の目標として、「凡事徹底の意識の向上」を掲げた。その内容としては、・挨拶をする・服装を整える・ルールを守るとしたが、まだまだ不十分だと感じている。来年度は、第3学年となるので、生徒一人一人が意識を高めて生活できるように指導を進めていきたい。指導だけではなく、生徒同士で向上しあえるようにしたい。</li> </ul>
	自主学習の質の向上とアクティブ・ラーナーを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○振り返りの時間を活用して、自分の学習について振り返り、家庭において自主学習で取り組むべき内容と取り組み方を具体的に計画する態度の育成を図る。</li> <li>○振り返りの時間に計画を立て(Plan)、自主学習を行い(Do)、自主学習の振り返り(Check)、さらに自主学習を広げる(Action)のPDCAサイクルを自ら構築する態度を育成する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りの時間には、前日の学習時間の記録と本日帰宅後に取り組む内容を記録している。家庭学習の内容を決められている生徒は、学習時間も長くなってきているが、まだまだ主体的に学習に取り組むことができていない生徒もいる。今後は、自分の学習で短期目標・中期目標・長期目標を明確にして、その達成度を確認する時間をしっかりと確保していきたい。</li> </ul>
	自ら挑戦する意識の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級の係や当番活動だけではなく、委員会活動などより学校生活に向けた取り組みに進んで取り組もうとする態度を育てる。</li> <li>○学校生活をよりよくするために自ら企画を立案して実行するために、実施計画書の作成を促し、自ら挑戦する意識の向上を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級の係や当番活動、委員会においては、ほとんどの生徒が進んで取り組んでいる。しかし、決まった生徒が取り組んでいない現状もある。自分のことだけではなく、周りのことや全体のことももっと意識できる生徒を育成していきたい。実施計画書に関しては、とてもよく活用できた生徒もいるが、活用できている生徒が固定しつつある。今後は、挑戦の幅をもたせて、もっとたくさん生徒の参加を促したい。</li> </ul>

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない